

2020（令和2）年度

# 湘南むぎばたけ事業計画



社会福祉法人ひばり

## 1 自主性・主体性を尊重する取り組み

施設利用者の自主性や主体性を伸ばすために生産活動や行事等の様々な場を利用し取り組みを進めます。

生産活動では 働くことの大切さや賃金（工賃）を得るための活動 旅行や行事では 主体的な行動や選択機会の提供 日常生活動作の練習では 将来の生活に役立つ カギの管理や手洗い等 収穫体験では 農作物の収穫の喜びを体験できるようにすることや体を動かすことで気分転換やストレスの解消となるように 様々な場を提供します。

### （1）生産活動の場の提供

生産活動は 個々の障がい者が生計を維持するために重要となるだけでなく作業を通じてひとり一人の役割を認識したり 手指を使うことで発達や刺激を促したりグループ内でのコミュニケーションツールとしても有効と考えられます。

さらに作業工程の中からそれぞれの意思決定力を高める効果も考えながら作業自体の場を提供したいと考えています。

#### 主な作業

- ① チラシ等の折り込み作業
- ② ガラス運搬時の緩衝材（スペーシア）づくり
- ③ 自主製品（くすのきチップ）の製造販売
- ④ CD・DVD・家電製品の解体、分別作業

■ 作業を通じ自主性や主体性・意思決定力を引き出す取り組みとします。

### （2）旅行や季節行事・レクリエーションの実施

行事やレクリエーションについては 職員側で準備し 施設利用者を楽しむ機会を提供するものと 利用者自身が準備に参加することで 自主性や想像力を養うものに分けて考えていきます。

#### 主な行事等

- ① 職員が主体となる行事等（例；日帰り旅行 法人のまつり等）
- ② 利用者が準備に参加する行事等（例；季節の行事・クリスマス等）

- 行事等においては 利用者が準備から参加できる内容の検討を進めます。

### (3) 日常生活動作の練習

日常生活で必要となる手洗いや鍵の開け閉め等が身に着けられるよう ひとり一人に合わせた練習をすることで 将来の生活に役立てられるよう行います。

- 将来の生活に役立つスキルを身に着けられるよう練習の場を提供します。

### (4) 収穫体験の実施

現在 借りている畑を利用してできた農作物の収穫体験を引き続き実施します。また前年と同様に収穫量によっては 販売を行います。

- 農作物の収穫体験と販売を行います。

## 2 安全・安心の取り組み

増える自然災害に対し 施設としてどのように取り組むのか また緊急時の対応を円滑におこなうためには 日頃の準備や訓練が大きく影響します。この項では 災害に対する対応や対策を予め想定し決めておくことが重要なため 防災計画や避難訓練 連絡網の整備やグループホームのバックアップ等 施設利用者 家族 職員 地域の安全・安心のための取り組みとなります。

### (1) 防災計画の改定

一昨年に続き昨年も災害の多い年でした。特に昨年は台風や豪雨による被害が国内で多く発生しました。湘南むぎばただけでも昨年の9月に上陸した台風15号の強風で 空調設備に被害が出たり 裏手の倒木により停電が発生したりしました。このような状況を踏まえ防災計画についても見直しをする予定です。

- 災害に則した行動計画の改定に努めます

### (2) 災害に強い施設づくり

大規模な災害が発生すると様々な被害が想定されます。前述したように一度停電

が起これると エアコンが停止するだけでなく 様々な電気機器や水道等も止まるため備えが必要となります。特に飲料となる水は重要なことから備蓄品についても常に点検し不足のないようにすることで 災害に強い施設づくりに取り組んでいきます。

- 災害備蓄品の点検と不足品の補充に努めます

### (3) 避難訓練の実施

避難訓練については 毎年9月と3月に実施し 実際に災害が起こった時 施設を利用する人が 素早く安全に避難できるようにするため 職員の役割や行動を明らかにしておくことも重要です。

今年度についても 職員の役割を考えながら実施したいと考えています。

- 9月と3月に避難訓練を実施します

### (4) メール配信による緊急連絡網の検討

緊急時の連絡網の一つとなる スマートフォンやパソコンを利用した連絡方法について 引き続き検討を進めたいと考えています。

昨年度は 実態の把握や家族の意向確認が十分でなかったことから 再度意向調査を行い 実施に向けた検討を進めたいと考えています。

- メールによる情報提供実施に向けたご家族への意向調査を行います

### (5) 地域との連携の検討

災害時に速やかに施設利用者の避難を行うためには 地域の人々の協力が欠かせないと考えています。また地域の障がい者が避難する場としても当施設が位置づいていることから 地域との関連も一層重要となります。

このようなことから法人が実施するまつりや別掲するボランティアの育成を通じて 地域との関わりを模索していきたいと考えています。

- 法人が実施するまつり等の場を利用し地域との関係を深めます

### (6) グループホームのバックアップ

災害などいざという時に地域との関わりは重要となることは前掲しましたが地域に点在するグループホーム（ひばりの宿）はなおさらです。

いざ災害が発生した場合 一義的には職員による対応が必要となりますが 避難所での生活を考えた場合 職員だけでなく 地域との関わりも重要となります。

- グループホームのバックアップ体制を防災計画に基づき進めていきます。

### 3 人権に配慮した取り組み

ここでは広く障がい者の人権に対する考え方や虐待の起こらない施設の環境づくり ひとり一人の個人情報の大切さについての取り組みとしました。

#### (1) 合理的配慮の取り組み

合理的配慮については 職員ひとり一人の気づきが大切になります。日々の活動の中で 障がいの特性によるハンディを補うことや解消するためには 職員が気づいたことを実践することが求められます。

このようなことから国のガイドブックを参考としながら 職員ひとり一人に意識づけとなるような学習機会の場を設けたり 写真やピクトグラムを使用し 施設利用者の意思決定が進むような取り組みも併せて行います。

- 利用者の意思決定のために写真やピクトグラムの活用を進めます。

#### (2) 虐待の未然防止の取り組み

障がい者虐待を未然防止するために 事業所で作成したハンドブックを活用し 理解を深める取り組みを引き続き行います。

- 事業所で作成したハンドブックを活用し障がい者虐待を正しく理解するための学習会等の取り組みをします。

#### (3) 苦情解決の取り組み

利用者から苦情とならない運営に努めることはもとより 解決に向けては藤沢市内の法人で設置する第三者機関「ポッポ No. バリア」に引き続き加入するとともに 本人やご家族への周知に努めます。

- 苦情解決のための「ポップ No. バリア」を利用し 苦情が起こらない運営に努めます。

#### (4) 個人情報の保護

個人情報 が 誤った活用や取扱いとならないよう 職員の認識を深める取り組みを進めます。また情報の収集にあたっては 必要最小限に努め 目的以外に利用する場合は 本人またはご家族の同意や確認をおこないます。

- 個人情報保護規定を順守した運営に努めます。

### 4 健康に配慮した取り組み

健康づくりや健康維持は誰もが願うところです。当施設では 利用者の健康づくりや健康維持のために 以下の取り組みを進めます。また新たに発生したコロナウイルスによる新型肺炎等の予防に向けた対応ができるよう 必要物品を備蓄するとともに危機管理マニュアルの作成に努めます。

#### (1) スポーツや軽運動の実施

スポーツは 身体の健康だけでなく ストレスの解消など心身の健康にも有効といわれています。通常の活動だけでは 運動不足が心配されるため 当施設では運動機器を利用した取り組みを進めていますが 運動の好き嫌いも見受けられ運動不足が解消されるまでには至っていません。このようなことからすでに体育館等を利用した運動の取り組みを始めました。

しかし地域の体育館は 法人の活動では借りることができないため 藤沢市南部にある太陽の家の体育館の利用になっています。現在 始めたばかりであり 今後は活動内容を含め 運動の機会について考えていきます。

- 運動機会を増やし 運動不足の解消に努めます。

#### (2) 食生活に配慮する取り組み

年齢の高い利用者や疾病のある利用者が出始めているため 食事のカロリーに注意するだけでなく きざみや食事に掛ける時間等工夫しながら食事を提供したいと考えています。

- 利用者にあった食事の提供に心がけます。

### (3) 身体<sup>からだ</sup>の健康

当施設では 利用者の健康管理として 定期健診や歯科健診を協力病院等において お願いし毎年実施しています。またブラッシング指導等も実施し 利用者ひとり一人の健康チェックを行ってきています。今年度についても 同様の取り組みを継続し 利用者の健康に留意した取り組みを進めます。

- 定期健診や歯科健診を実施します。

### (4) 感染症等への対策強化（新）

2020 年に入り新型コロナウイルスの感染拡大により 屋外活動の自粛など運営に影響が出てきています。（3 月中旬現在）

また職員が使用するマスクや消毒液の不足が深刻となり さらに事態が悪化した場合の備え等も心配されるところまで来ています。このようなことから 今後同様の事態が発生した時を想定した危機管理マニュアルの作成に努めるとともに 物品の購入等日頃から備えをしていきます。

（購入物品）

- ① マスク 3ヶ月分（600 枚）
- ② エタノール消毒液 3 か月分 400ml を 30 本
- ③ 非接触型体温計 3 本
- ④ 使い捨てゴム手袋 100 枚入り 5 ケース

- 危機管理マニュアルの作成と施設の運営に必要な物品を購入します。（衛生物品の備蓄）

## 5 職員の支援技術向上の取り組み

よりよいサービスの提供を行うための支援技術の向上や職員自らが自身の将来像を考えるための取り組みとしました。

## (1) 職員研修の参加及び実施（OJT・OffJTの推進）

サービス利用者の意思の確認や接し方 個別支援計画の目標達成のための具体的支援内容等を考え実践するためには 職員ひとり一人の支援する力が必要となります。そのためには 日々の活動の中から支援技術を身に着けることが有効です。このようなことからOJT（内部研修）やOffJT（外部研修）の考え方に立ち支援技術の向上に努めていきます。

また新年度から 外部講師を依頼し 年2回（上期と下期）テーマ別に 施設運営に役立つ情報を学びたいと考えています。

上期 テーマ （仮）「利用者の健康と栄養」

下期 テーマ （仮）「運動の効果と運動不足の解消」

■ OJT・OffJTを推進します。

## (2) 国家資格取得の推進

国が推奨するキャリアパス制度では 職員の支援技術向上の一つとして 国家資格（社会福祉士 介護福祉士 精神保健福祉士 保育士等）を取得することが望ましいとなっています。このようなことから当法人で実施しているキャリアパス制度においても資格取得が一つのキャリアとなっており 引き続き国家資格の取得を奨励します。

■ 国家資格の取得を促進します

## (3) 職員登用制度（キャリアパス）の実施

職員の処遇改善や働く意欲の動機付けを図り 自身の将来を見通すための仕組みとしてキャリアパス制度を着実に実施します。

■ 職員の働きやすい環境づくりに向けキャリアパス制度を推進します

## (4) 業務（人事）評価制度の実施

同一労働同一賃金の考え方や職員が日々の仕事に取り組む姿勢を評価することが社会的にも必要となってきたことから 法人が実施するキャリアパス制度



に基づき業務（人事）評価を行います。

- 適正な評価ができるよう努めます。

## 6 健全な施設運営

施設を安定的に運営するために必要な直接支援以外のサービスの充実や地域との関係を深めるための取り組みとしました。

### （1）送迎コース等の拡充

施設送迎については 利用希望が多く 現在 5 コースに分け実施しています。職員も添乗を含めると ほぼ全員で送迎にかかるため 今後は施設運営に支障が起こらない範囲で 送迎の拡充に努めます。

- 施設送迎については 必要により時間差で実施するなど新たな方法の検討を進めます。

### （2）利用者定員の拡大の検討

グループホームへの入居や施設への入所等により退所者がでてきていることから施設運営に支障がおこらないよう 利用人数の適正化に努めます。

- 社会的ニーズに corres えるため 利用実習の拡大や啓発に努めます。

### （3）職員確保と定着

これまで職員募集をおこなっても 応募数が少なく職員確保が厳しい状況でしたが 現在行っている非常勤職員の募集では 過去になく応募数が増えています。

現段階では 新年度の職員確保の見通しは整いつつありますが 今後は 採用した職員の定着に向け 働きやすい環境づくりを進めていきたいと考えています。そのためには職員ひとり一人がやりがいを持てるような施設運営に努めます。

- 職員間のコミュニケーションを大切に し 職員ひとり一人の役割を明確にします。

### （4）ボランティアの受け入れと育成

ボランティアについては 前年度から受け入れを進めてきましたが 秋に実施した日帰り旅行の1名となりました。現在 新感染症の流行により 事業の縮小(外出等)でボランティアの参加について 見送りとしていますが 新感染症が終息した段階で ボランティアの受け入れや周知を改めて進めたいと考えています。

- 日帰り旅行や屋外活動等へボランティアが参加できる場を提供します。

## 7 SDGsとエシカル消費(新)

自然災害の頻発や地球環境の変化 新型ウイルスの発生等 私たちの生活環境が悪化してきていることから 事業所若しくは職員としてできることに着目し取り組むこととしました。

- \* SDGs 持続可能な開発目標(人権や環境等に配慮した17の目標)
- \* エシカル 環境や社会に配慮した製品やサービスの利用

### (1) マイバッグ・マイボトルの推進

深刻化する海洋汚染問題の改善に向け 神奈川県や藤沢市の取り組みに賛同し レジ袋やペットボトルの削減に向け 湘南むぎばたけの事業所・職員からマイバッグやマイボトル運動を進めていきます。

また施設利用者や家族への普及に努めます。

- プラスチック・ゼロ を目指し マイバッグ・マイボトルの使用を職員から推進します。

### (2) 福祉事業所の製品の購入の推進(福祉事業所版フェアトレード)

福祉事業所で働く障がい者の働く場と賃金の確保に向けて 福祉事業所で製作した商品の購入利用を進めます。

- 湘南むぎばたけが実施するイベントや行事で使用する物品を他法人の福祉事業所で製作した製品の購入利用に努めます。

### (3) 食品残さ(食べ残し)の堆肥化(循環型社会への貢献)

毎日 破棄される食べ残し等の食品残さを有効利用することで 環境問題と地域貢献に取り組みたいと考えています。具体的な取り組みとしては 湘南むぎばたけで提供する昼食の食べ残しの堆肥化を作業活動として位置づけ 畑の肥料としての利用を考えています。将来的には 法人内で発生する食品残さを活用し園芸肥料づくりと販売が可能か検討を進めます。

- 循環型社会の一つとして 食品残さ の堆肥化を進め 施設利用者の新たな作業活動として検討を進めます。

#### (4) 温室効果ガスの削減

気候変動対策の一つとして 温室効果ガスの削減の取り組みが重要となります。当施設では 自然エネルギーの活用や電気自動車の利用 緑のカーテン等の取り組みを進め 藤沢市（協議会）が実施する環境フェアにも出店しているところです。今後はさらに職員の意識を高め 温室効果ガスの削減に向け 事業所や家庭での取り組みを進めます。

- 地球温暖化対策マニュアルの改訂を進め 事業所や家庭で対策を進めます。